

科目No.	112		科目名	化学物質総合管理学特論5		サブネーム	食のリスク評価・管理の基礎			
共催機関/連携機関	主婦連合会/化学生物総合管理学会		レベル	基礎	講義日時	木曜日 18:30～20:00	講義場所	主婦会館		
科目概要	2003年の食品安全基本法の制定を期して我が国の食品安全行政は大きな転機を迎え、科学を基本としたリスク評価をもとに管理し情報交換するというリスク分析を柱とする施策に方向転換した。行政のみならず、産業界、学界、一般市民においてもリスク分析によって進められる総合的な食のリスク管理への取り組みを余儀なくされている。一方、食料の60%以上を海外に依存する我が国にとっては、世界の潮流に遅れず、国際的な調和をも要求されることとなった。本講座では新たに始まったリスク分析について、その本質と食の安全確保にむけての国際的な枠組みについて学ぶ。									
サブタイトル	No.	講義名	講 義 概 要			講義日	教室	講師名	所属	
食のリスク管理と国際的 枠組み	1	食のリスク管理概論	この科目全体の概要を解説し、食のリスク管理を取り巻く諸要因について考える。			4月10日	主婦連合会 会議室 (JR四谷駅 前主婦会館 内)	福富文武	前ILSIジャパン	
	2	食のリスク管理をめぐる諸要因	食のリスク管理に関わる生物的、化学的、物理学的諸要因について、それらに内在するリスクの本質とリスク管理のあり方を概説する。			4月17日				
	3	食のリスク管理の国際的枠組みとわが国	食のリスク管理をするための国際的な枠組みと調和のための取り組みについて概観し、わが国の役割りと取り組みの現状を考察する。			4月24日				
	4	コーデックスの役割とわが国	食のリスク管理のための国際規格として重要度を増したコーデックスの役割を概観し、わが国の対応の現状を精査し、今後のあり方を考察する。			5月1日				
食のリスク分析	5	食のリスク分析	国際的な食品のリスク管理において重要な手法であるリスク分析の枠組みを解説し、リスクの概念が取り入れられた背景について論じる。			5月8日		唐木英明	東京大学名誉教授	
	6	食のリスク評価と管理	リスク分析の中で重要なリスク評価ならびに管理の枠組みを概観し、リスク評価に適用される科学データや情報と手法について解説する。			5月15日				
	7	食のリスク情報交換	リスク評価に基づき進められるリスク管理のうえで主役を務める科学情報の伝達と意見交換における課題と進め方について論じる。			5月22日				
食品規制の体系	8	健康・栄養増進のための法規制	食の健康や栄養増進におけるあり方、健康食品、サプリメント、特定保健用食品等、従来の食品の枠を超えた食品群に関わる法制度の現状を整理し、その現状と将来に向けての課題を探る。			5月29日		末木一夫	NNFAジャパン	
	9	食のリスク分析のための法規制	食のリスク分析の推進は、農場から食卓までのフードチェーン全体の流れの中で行われるべきである。わが国の食の安全のための法制度についてまとめ、その現状と将来へ向けての課題を探る。			6月5日				
	10	食品表示の法規制	食品表示は消費者に向けての直接かつ有力な情報提供であり、消費者が購買するうえで食品の理解と選択に重要な手段である。食品表示の現状を解説し、消費者自らのリスク管理における活用について論じる。			6月12日				横山 勉
リスク管理・品質保証	11	リスク管理としての品質保証活動	食品生産・製造の現場から食卓までのフードチェーンにおける安全・品質保証体制の中で、リスクを低減するためにとられる総合的な管理システムを論じる。			6月19日				
	12	輸入食品監視	60%以上の食料を海外に依存するわが国では、輸入時における食品の検査、検疫は重要な役割を担っている。検疫業務の実際と課題について論じる。			6月26日		伊藤澄夫	三栄源エフ・エフ・アイ	
	13	食品検査 I	食品検査には、精度の高い検査・試験法が望まれる。科学技術の発展により、食品検査法は従来の理化学法に加え、遺伝子をマーカーとして食品の素性を明らかにすることが可能となった。検査の基礎と応用について論じる。			7月3日				布藤 聡
	14	食品検査 II	遺伝子検査技術は有害微生物の同定や食肉の品種鑑定等品質管理などに大きな影響を与えつつある。遺伝子検査技術の現状と展望について論じる。			7月10日				
まとめ	15	まとめと総合討論	食のリスク管理に関わる諸要因について復習をしながら、わが国におけるこれからの食のリスク管理についてどのような努力をしていくか、受講者を交えて討論する。			7月17日		講師及び受講者		

2008/4/22 講義No.14(7月10日)を講義No.12(6月26日)に変更、これに伴い講義No.12(6月26日)及び講義No.13(7月3日)を順次繰り下げ、2008/5/7 講義No.8(5月29日)及びNo.9(6月5日)の入替え。